

第2回 幹事会(10/9)

緊急事態宣言により1ヶ月遅れて、第2回幹事会が講堂にて開催されました。

幹事会とは全28地域の窓口さま・世話人の方 2~

3名の方々に、父母懇の活動報告や提案、講演会などを聞いていただき、様々な情報をお届けする会です。コロナ以前は分散会もあり、各地域の運営方法や悩みを共有する場でもありました。

半年ぶりの開催ということもあり、秋の地域懇開催に向けて地域懇の開き方を改めてご説明した後、「隣の地域懇」レポートと題し、天白地域の「オンライン」を利用した開催について報告していただきました。



非接触式で検温

そして代表の北村先生より新たなご提案がありました。地域懇開催の際には、新型コロナ感染防止対策のための物品が必要となります。そのため父母懇会計より全28地域に、一律5千円の「地域懇支援金」をお届けする旨を提案し、満場の拍手により承認されました。

続いて、紺野先生から私学助成金についての説明と、最後に東海OBで、テレビでもご活躍中の山本尚範(たかのり)医師にコロナ対策とご自身の東海ライフも含めて講演していただきました。

【参加者の感想】

- ・ 地域懇の開き方が世話人の方に詳しく伝わり、これからの活動の役に立つ有意義なものであったと思います。
- ・ オータムフェスタなどで活躍している東海生徒さんの「生の声」に感激致しました。
- ・ 山本先生の講演はコロナ禍での必要な情報を分



イス一脚にお一人で

かりやすく説明して頂き、とても参考になりました。また、子供達には「体験」が大切であり、社会に出てからは「知的好奇心」や「学ぶ意欲」のある人が必要とされるというところに深く共感しました。一日でも早くコロナが収束し、子供達が色々な事を体験できる世の中になることを願います。

「隣の地域懇」レポート

「オンライン」を利用した開催について

天白地域窓口 高田さん

昨年の春はコロナ禍で休校になり、例年5月の「新入生歓迎会」が中止となりましたが、11月に校内スタディホールにて「秋の懇親会」を開催し、新入生の保護者の方々を会員の皆さまへご紹介いたしました。そして例年1月に行われている「冬の懇親会」は受験直前期で、特に高3の保護者の方々への感染不安があり対面では難しく、一方Zoomでの開催も一部に抵抗感が出るなか、着地点として事前に収録した先生方のお話の動画をオンラインで配信する(いわゆるオンデマンド)という方法をとりました。



出席された方から「例年だと出席者しか聴けないお話が、オンラインでの開催であれば時間のある時にゆっくり視聴できる」「子ども(生徒)も先生方のお話を聴くことができる」といった感想が寄せられ、オンラインでの開催という新しい試みについてメリットを見出し、新たな活動の形を知ることができました。今後は新型コロナウイルスが終息したとしても、1月はインフルエンザ感染の不安もあることから、今後の天白地区「冬の懇親会」では、オンラインでの開催を予定しています。

そして今年5月の「新入生歓迎会」も延期となりましたが、7月にスタディホールにて、無事に対面での開催をすることができ、出席された方から「コロナ禍で、父母懇談会のイベントも中止や延期となっていたので、久しぶりに皆さまとお会いし、お話ができて、嬉しく思いました。」「感染対策として、飲食無しの講演会形式をとったことで、先生方のお話が、より一層集中して聴けるようになり、良い一面も感じました。」といった感想が寄せられました。



7月の新入生歓迎会

窓口の高田さんは「まだ当分の間は現在のような社会的状況が続くことが予想されるため、父母懇の活動は、臨機応変に何らかの形で継続し、皆さまが繋がっていくことが大切。」と、幹事会に参加された皆さまに訴えかけられていて、どのような状況においても柔軟に対応する必要性を感じました。

なお、配信の準備は担当の堀口先生が、コロナの制約や父母の要望を踏まえて、事務局や窓口の皆さんと丁寧な双方向でやりとりしながら進めていただいたそうです。

「東海の教育を支えている愛知の助成金とみなさんをお願いしたいこと」

紺野一弘先生(高校社会科)

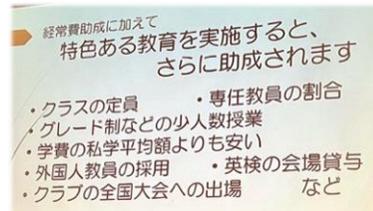
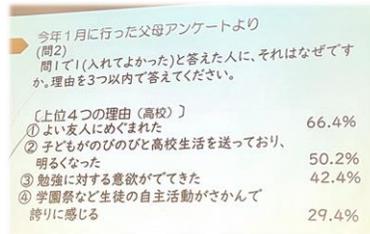
紺野先生のお話は、「東海中学高校に助成金は必要か?」との質問から始まりました。答えはもちろんYES!なのですが、それはなぜなのかをわかりやすく解説していただきました。



今年1月に行った父母アンケートでは、入学してよかった!!とお声がほとんど。その一方で、「授業料を安くしてほしい」、「実験や体験の授業を増やしてほしい」、「学級定員を減らしてほしい」などの要望もたくさん出ていたそうです。そしてそれら実現のためにも、

まさに助成金が必要なのだということでした。

一口に助成金といっても、経常費助成(学校への助成)と授業料助成(家庭への助成)があります。今年度の経常費助成は、高校生一人当たり 345,069円、中学生一人当たり320,757円もの金額となっています。加えて、愛知県には独自に「よい教育環境をつくり、よい教育活動をした学校に多く配分される仕組み」もあります(右のスライド)。これにより東海は良い教育環境を創造し、特色ある教育活動を展開して行けるとのことでした。



そして授業料助成については、毎年父母のみなさんにたくさんの署名を集めていただいた上に、オータムフェスティバルなどで議員の方々に私学の良さを理解・共感していただき、署名を採択していただいているからこそ、世帯収入720万までの家庭の無償化が実現したとのお話がありました。

みなさんをお願いしたいこと…

1. 国向けの請願署名をぜひ!筆でも多くご協力をお願いします!
- ※「請願署名」は最近話題となっている「リコール署名」とは異なり、印鑑不要、代筆も可で、年齢は問いません。
2. 10月から各地で開催されるオータムフェスティバルの会場にぜひ足を運んでください!
3. 11月3日(水・祝)のビッグフェスティバルにご参加いただき、運営協力券の普及もお願いします!

「東海中高は進学実績だけの学校ではない」

「学びは教科書や授業だけではなくありません。生徒は、クラブ活動や記念祭やサタデープログラムなど、教室の中だけではなく様々な経験を通じて多くのことを学び、大人になっていきます。この学校に通う限り、たく

さん散りばめられている数知れないほどの学びが用意されています。これらを見つけながら、貴重な体験をし、社会への道が開かれていくのです。子どもたちの明るい未来を支えていくのは、私たち大人の務め。東海の教育を支えている助成金についてもぜひご理解いただき、他の学校の子どもたち、そして愛知県や全国の子どもたちが充実した教育を受け、この国の未来を支えていく応援をしていきましょう。」と力強いお言葉でお話を締めくくられました。

OB 講演

「新型コロナと東海生活」

山本尚範(たかのり)先生

(名古屋大学大学院医学系研究科
救急・集中治療医学分野 医局長)

略歴:

東海中高卒。在学中は生徒会長を務めるなど東海ライフを満喫。高校1・2年生の時には阪神大震災のボランティアや記念祭に打ち込む。医学部を卒業後、名古屋大学附属病院で麻酔と外科系集中治療に従事。2013年には日本初の市民病院合併の中東遠総合医療センターの救急センター立ち上げに尽力。現在は、救急専門医、集中治療専門医として、新型コロナの重症者治療の最前線に立つ。愛知県医療体制緊急確保チーム統括官補佐も務める。その傍ら、今年6月の東海中高サタデープログラムでは新型コロナの医療現場について講演。また、夕方のニュース情報番組でも新型コロナの最新情報を分かりやすく解説して好評を博す。ちなみに、山本先生のお母さまは1996年に東海中高父母懇の父母代表をお務めいただくなど、父母懇とは深〜いご縁も。



お詫び:

気まぐれ DIARY においても No.14 で掲載していた山本尚範先生の講演内容は、別の号で掲載いたします。お待たせしてしまい申し訳ありませんが、講演後にインタビューで先生の東海ライフについてもたっぷりお聞きしましたので、同時に紹介いたします。

次号の掲載予定

- ・第2回文化講座プレ企画
- ・ビッグフェス前夜祭

編集後記

コロナ禍となり、社会は一気にデジタル化の波がやってきました。対面の大切さを噛みしめつつも、デジタル化の流れによって漕ぎ出す天白地域懇の報告と、参加者の感想はとても参考になりました。

そして紺野先生のお話では助成金の仕組みと私たちの取り組みのつながりがよく分かりました。今回ご紹介した紺野先生の最後の部分は、東海に通わせて本当に良かったなど心から思える素晴らしいメッセージだったと思います!

ありがとうございました。